

令和7年度 香南市学校評価報告書

香南市立佐古小学校

経営理念	【学校経営理念】学び合い・関わり合い、自ら伸びる学校づくり
	【学校経営方針】《学び合い》学びで“たかまる”学校 《関わり合い》関わり“つながる”学校 《自ら伸びる》夢を語り“ひろがる”学校
	【学校教育目標】伝え合い 学び合う 佐古小学校

短期計画 目標〈単年度の到達 指標〉		自己評価			学校関係者評価		年度末検証
		具体的な取組	目標指標達成度	到達状況	評価	考 察	
知	【全国学力学習状況調査正答率】(国・算)全国・高知県平均以上 【高知県学力定着状況調査目標値との差】(国・算・理)目標値以上 【標準学力調査正答率】(国・算)目標値以上 【魅力アンケート】「授業に主体的に取り組んでいる」肯定96%以上「授業がよく分かる」肯定94% 【学校アンケート】「話し合いを通じて、友達の意見を参考にし、自分の考えを広げている」肯定91%以上「算数の授業に主体的に取り組むことができた」肯定90%以上	①算数科の授業研究を基盤として主体性を伸ばす授業づくりを行う。	【全国学力学習状況調査正答率】国語：全国66.8%、高知県68%、自校64% 算数：全国58%、高知県59% 自校52%算数は平均を下回った。	①学習指導要領を基に、既習と未習とのズレを意識した授業づくりを全教員で確認しながら取り組むことができた。また、全校研・ブロック研を実施することで主体性を伸ばす算数の授業づくりについて指導力を向上させた。	B	○学力調査について、達成できていない学年もあるが、全体的に学力は昨年度よりも向上傾向にある。先生方の対応や取組の成果が出ている。 ○学校全体に、落ち着いて学習できる雰囲気を作れているので今後も検証と改善を繰り返しながら、子どもたちに学力が定着する取り組みに向上させていって欲しい。 ○タブレット活用について有効な活用の仕方を今後も探っていって欲しい。	A
		②児童一人一人が学び方を学び、学ぶ力を育成する授業を行う。	【高知県学力学習状況調査正答率】4年 国語 +2.9、算数 -1.9 5年 国語 +5.8、算数 +11.1、理科 -1.9	②複数の学習用具(タブレットやノート等)や個人ペア、グループなどの学習形態を児童が選択できる授業をする教員が増えている。			
		③書くことに重点をおいた実践を計画的に行う。	【12月実施:標準学力調査正答率】1年 国語 +7.5、算数 +14.4 2年 国語 +9.7、算数 +10.6	③条件作文等を通して「書くこと」に重点を置いた指導を行うことができた。			
		④標準学力調査・全国学力状況調査・高知県学力定着状況調査を分析して課題対応を行う。	3年 国語 +6、算数 +6.8 6年 国語 -2.9、算数 -5.2 【アンケートより】	④学習支援が必要な児童を対象として、算・国教室や放課後等の個別指導を行った。「家庭学習すすめ」を配布して家庭学習の習慣化を図ったり、自主学習ノートや算数ノートの掲示をしてよい見本を紹介したりした。			
		⑤校外研修に参加し、研修内容を校内で伝達する。	①「授業に主体的に取り組んでいる」肯定94.5%(目標値-1.5%)	⑤東部教育事務所の支援訪問による学力調査の結果分析についての研修を7月と1月に全教員で取り組むことにより、課題や指導改善について共通認識を持つことができた。また、7月の研修後に取り組みについて話し合い、全校で取り組んだ。			
		⑥ICTを積極的に活用し指導力向上に取り組む。	②「授業がよく分かる」肯定95.5%(目標値+1.5%)	【アンケートより】 ①主体性について学年に沿った内容を考え授業づくりをした。全校研・ブロック研の事後研では、児童の主体的に学ぶ場面について重点的に話し合った。			
		⑦学習支援が必要な児童を対象に、通級指導教室や放課後等の個別指導を行う。	③「話し合いを通じて、友達の意見を参考にし、自分の考えを広げている」肯定86.7%(目標値-4.3%) ④「算数の授業に主体的に取り組むことができた」肯定91.9%(目標値+1.9%)	②ICT活用について、DX担当が中心となり研修を生成AIの活用や校務の活用などについて研修を行い、理解を深めることができた。また、各学級でのICTの活用の交流を行った。			
徳	「学校が楽しい」100% 「みんなで何かをするのが楽しい」	①「考え、議論する」道徳の授業実践をめざした授業改善を行う。	「学校が楽しい」96.9%未達成(-3.1) ①「道徳の授業が好き」93.5達成(+3.5)	①クラスの実態に合わせた授業づくりのための授業研究や、道徳参観に教員それぞれが取り組んだ。 ②目標は達成できたが、縦割り班での異学年交		○「学校が楽しい」は96.9%(昨年度は90.2%)で指標には届いていないが、取り組んでいる内容は大変良い	○全教員が公開授業を行うことができた。 ○学力調査の結果を分析し授業改善につなげることができた。 ○基礎的・基本的な内容の定着や、単元によっては思考力を問う場面において、一定の成果が見られた。授業改善や教材研究、個に応じた支援の積み重ねが学びに着実に繋がっている。 ○知識・技能の習得にとどまらず、学び方を学ぶ指導を全教員が意識的に取り入れること、子ども自身も学習を振り返り、次の学びにつなげていく自立した学習者の育成に今後取り組んでいきたい。 ○東部教育事務所の支援訪問による指導助言を聴き、研究主任や学び部長が中心となって本校の課題解決に向けて取り組むことができた。
							○参観日や公開授業の際に、道徳の授業公開を行うことができた。 ○道徳意識調査の検

	肯定96%以上 「道徳の授業が好き」肯定90%以上 「自分にはよいところがある」肯定90%以上 「誰にでも進んで挨拶ができる」肯定96%以上 「先生は話を聞いてくれる」肯定97%以上	②あいさつの日常的な意識化を図る取組を工夫し継続して行う一日の中で児童が夢中になって取り組める授業や活動できるように工夫する。学級活動や行事、縦割り班活動の充実を図る。 ③ありがとうカードを学期に1回取り組み、学年を超えた交流の機会も持ったり友だちのよいところ見つけを継続的に رفتたりする。 ④子どもと話すときは、視線を合わせきちんと向き合うことを意識する。	②「みんなで何かをするのは楽しい」96.9% 達成(+6.9) ③「誰にでもすすんであいさつができる」91.6%未達成(-1.4) ④「学校の先生は話を聞いてくれる」100%達成(+7)	流をもっと進めたいという意見もある。場の設定が今後の課題である。 ③あいさつ運動を学校地域が連携して行うことができた。今後も日常的に挨拶が出来るよう、意識化を図っていくようにする。 ④今後も児童に寄り添った関係づくり、指導を継続していく。	B	もので評価ができる。先生方は様々な工夫をしながらよく頑張っていると思う。 ○月1回のあいさつ運動が定着している。 ○あいさつができる子どもが増えている。また、言えない子どもも、領いたりにこっとしたりして意思表示ができるようになっていく。その一方で、教員のあいさつに元気さを感じないことがある。先生がよいモデルになって欲しい。	B	証により各学年で改善点等を話し合い取り組むことができた。 ○あいさつができる子どもが増えている。保護者の意識調査において「誰にでもあいさつができていく」の肯定的評価が87.3%(86.6%)で少しではあるが、実感する保護者が増えている。今後も、さらに取り組みの工夫を進めていきたい。 ○計画的に支援会を実施するなど、しんどさを一人で抱えこまない風土づくりが定着している。
体	【全国体力・運動能力調査】 体力合計点全国平均以下、D・E評価割合25%以下 【学校づくりアンケート】 「体育の授業が好き」肯定98%以上 「学校のきまりを守って生活している」肯定95%以上	①体育の時間に帯びタイムを設定し「体力アップチャレンジカード」や「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」に取り組む。 ②メンターチーム会等で体育の授業についての研修を実施する。 ③校内のきまりを精査し、教員や児童が共通理解を図り周知の場を大事にする。	■体育の授業が好き 90.5% ■学校のきまりを守って生活している92.9%	■体育の授業について ・水泳学習では、「できた」「できそう」を経験できた。他の単元や領域でもそのような機会をもつことができるように引き続き教職員へ周知していく。 ・マット運動についてメンター会で取り上げ、若手の先生たちへ指導、助言を行うことができた。 ・ゲーム領域では、得点することに重きを置いたルールや場の設定を行うことができた。 →体育が得意な先生が若手の先生方に指導助言をすることで、単元や領域ごとのポイントを理解できる。それが、体育好きにつながるの、そのような場を設けることが大切だと考える。 ■学校のきまりを守る ①体育の服装のきまりを簡素化したり、学期はじめに共通理解を図ることができた。きまりを固定するのではなく、教職員や児童から出た意見をもとにアップデートしていく感覚が今後も必要。 ②きまりや約束が守れていないときに、学級指導で終わらせていたので、体づくり部から全校放送をすることを考えていく。	B	○日常的に体力向上を図る取組を工夫し行っている。 ○熱中症や水泳での事故があった中、準備や研修等、大変だったと思うが、計画通りの授業ができたことを聴き、ほっとしている。先生方の日々の取組や努力に感謝する。	B	○熱中症や水泳での事故を受け、準備や体制づくりが必要だったが、体づくり部が中心となり各担任等が連携・協力しながら計画通りの授業実施ができた。安全面を考慮する組織的な体制づくりの構築ができた。 ○何のためにきまりがあるのかなど子どもに考えさせる機会を作るなど、工夫した取り組みができた。
基盤となる体制等	【働き方改革の推進】 教職員の時間外在校等時間が月平均40時間未満にする。 【安全教育・安全管理の充実】	①メンター制と教科担任制の効果的な運用について研究を進め、勤務時間外在校等時間の減少につなげる。個別面談を通して、働き方改革への意識向上を図る。	①教職員の時間外在校等時間は、月平均29.4時間 ②「いつどこで地震が発生しても自分の身を守ることができる」100%「学校は安全意識(防災、交通安全、生活安全)を高める取組をしている」強肯定6	【働き方改革の推進】 ・月平均29.4時間におさえることができた。 ・働き方への取組が定着してきている。ゆとりをもった働き方や働き甲斐ができていくと感じている職員が多い。 【安全教育・安全管理の充実】 ⇒児童アンケートでは、8.8%の児童が、否定的	B	○昨年度より超過在校等時間人数が減少しているの、継続して取り組むとよい。 ○佐古祭りでの子どもの活躍が素晴らしい。また、教員も協力的で祭りを盛り上げて	B	○メンターチーム会を定期的・計画的に実施し、一人で悩みを抱え込まない体制が作れている。 ○教職員の時間外在校等時間を月平均29.

	「いつどこで地震が発生しても、自分の身を守る事ができる」100%「学校は安全意識を高める取組をしている」強肯定60%以上【家庭・地域との連携】「学校は家庭への情報提供を積極的に行っている」強肯定70%以上「学校は子供たちや保者・地域住民の意見を学校運営に反映している」強肯定50%以上学校だより、学年だより月1回発行校長だより月4回以上発行	②県学校安全プログラム等を参考としながら、学年の系統性を考えたカリキュラムに改善する。地域の防災課題に応じた危機管理マニュアルの見直しを行う。 ③地域学校協働活動の充実・学校運営協議会を定期的開催し、コミュニティ・スクールの定着と地域学校協働活動の促進を図る。 ・コミュニティスクールに関する啓発活動を行う。 ④いじめや不登校をつくらない組織的な仕組みや取組を行う。	1% ③「学校は家庭への情報提供を積極的にしている」強肯定61% 「学校は子供たちや保護者・地域住民の意見を学校運営に反映している」強肯定36.9% 学校だより、学年だより月1回発行。校長だより「さくらだより」月4回以上発行できた。	回答をしている。災害、防災についての学習や経験など、さらなる取組の工夫が必要。 ・防災、交通安全、生活安全教育について、学校に重点的に取り組んでほしいことに多くの希望があった。保護者と連携した取組を強化していきたい。 【家庭・地域との連携】 ・家庭との連携が図れるよう、情報提供の内容や時期について検討していく。 ・行事後には、保護者へのアンケートを実施するなど努めている。 ・お便りは予定どおり発行できた。保護者や地域との連携を意識して今後も取り組んでいく。 【いじめや不登校への取組】 ・SCやSSW等との連携をはかり定期的に校内支援会を実施することができた。 ・児童についての情報を早期に発見、共有し対応するために「おむすびの会」をつくり、組織的に対応ができるようにした。担任のニーズにあった支援会のあり方を再検討していく。		くれている。今後も一緒に祭りを大事にして取り組んでいって欲しい。 ○防災教育への取組の充実を図って欲しい。佐古での防災教育を考えていく。	4時間におさえることができた。一人一人が仕事に優先順位をつけたり、分掌を分担したりして仕事を進めることができています。 ○地域コーディネーターとの連携がさらに進み、あいさつ運動や学習支援体制ができています。 ○防災教育について、今後は佐古での防災教育を考え、子どもの命を取り組みを進めていきたい。	
不祥事を生じさせない職場風土づくり	【働きやすい職場、働きがいのある職場づくり】 100%不祥事を起こさない。 お互いを尊重し合い、お互いを大事にした言動を行う。	4月：不祥事防止委員会教育公務員としての服務について研修 5月：メンタルヘルス月間個人面談 6月：ハラスメント防止月間メンタルヘルス月間 7月・8月：研修、個人面談 9月：交通違反防止月間 10月：研修 11月：ハラスメント防止月間、メンタルヘルス月間 12月：交通違反防止月間 1月：研修 2月：ハラスメント防止月間メンタルヘルス月間、個人面談	①年間を通して、計画的に不祥事防止についての研修や取組を実施できた。 ②不祥事防止委員会を定期的に開催することができた。 ③学期に1回、面談を実施できた。 ④学校運営協議会に報告し意見をお聴きすることができた。	①計画的に取り組むことができた。また、強化月間では、掲示物など見える化して意識が高まるような工夫を行った。 ②企画の場で確認をするなど実施することができた。 ③個別に声掛けなど行うことで一人一人の困り感や心の安定感などを把握することができた。 ④学校運営協議会で報告を行い、ご意見もいただくことができた。	A	○服務についての研修などを実施し、意識を高めていって欲しい。 ○不祥事防止については、先生方がお互いを大事にしあう雰囲気や日常的に声をかけ合うことができているようで、安心している。	A	○不祥事防止について日常的な会話の中に入れるなど、自然な形で意識づけをすることができている。 ○教職員全員が、お互いの不足を理解し合いながら補い合っている。そんなチームワークのいい強い組織になっていることが大きな成果。

【自己評価のめやす】（取組評価指標平均と目標指標達成割合を目安とする）

《A》達成できた

・取組評価 85%以上、到達状況9割

《B》どちらかといえば達成できた

・取組評価 75%以上、到達状況 8 割以上

《C》どちらかといえば達成できなかった

・取組評価 65%以上、到達状況 6 割以上

《D》達成できなかった

・取組評価 65%未満、到達状況 6 割未満